

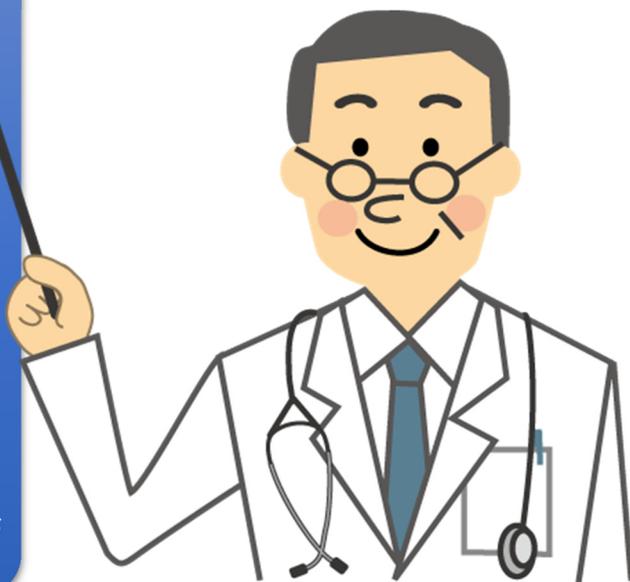
A型肝炎

Hepatitis A

A型肝炎は、途上国では一般的に存在する感染症です。汚染された飲食物を介して感染し、発熱、全身倦怠感や黄疸が見られ、重症化すると著しく衰弱し、数週間から1ヶ月以上も休養が必要になることがあります。

なお、慢性化したり、死に至ることは極めてまれです。

1992年に安全で効果の高いA型肝炎ワクチンが開発され、日本では1995年から予防接種が実施されています。予防効果の高いワクチンなので、途上国などへ渡航される方は接種をお勧めします。



病原体

- ピコナウイルス科ヘパトウイルス属に属します。

感染経路

- A型肝炎ウイルスが、糞便に汚染された水や氷、野菜や果物、またはカキなどの魚介類を介して経口的に感染します。

潜伏期間

- 15日～50日（平均28日）

症状

- 肝機能検査を実施しなければ気付かない程度の軽症も多く見られます。38度以上の急激な発熱から発症し、全身倦怠感、食欲不振、悪心嘔吐、黄疸などがみられます。重症例では、1ヶ月以上の休養が必要になることがあります。一般的に小児が感染した場合、成人に比べて症状が軽いといわれています。



予防法

1. 予防接種が最も有効な予防方法です。

2～4週間間隔で2回接種します。

さらに半年後に追加接種すると5年以上の効果が得られます。

A型肝炎には輸入ワクチンがあり、1回接種で約1年効果が得られます。

1年後に追加接種すると約10年効果が得られます。

2. 生ものは避け、飲食物は十分加熱しましょう。

感染源は主に生水、氷、生の魚介類、生野菜などです。

A型肝炎ウイルスは、85度で1分の加熱で不活化するので、十分加熱調理してあるものを食べましょう。

途上国では、ビン入りミネラルウォーターや、一度沸騰させた水を飲用しましょう。

また、カットフルーツなども、洗浄した水が汚染されていることもあるので、自分で皮を剥いて食べる方が安全です。

3. 食事の前は特に手洗いを徹底しましょう。

食事の前には十分に手洗いをを行い、糞便からの経口汚染を予防しましょう。

